

北海道国際理解教育 研究協議会 会報

第19号

会長 磯貝 登
事務局長 大泉 弘
発行 1991
11・5

帯広大会の成功を期待して

北海道国際理解研究協議会副会長

藤川 正 吾

(恵庭恵み野中学校長)

初雪の便りが届き、本格的な冬将軍の到来が間近な昨今、第12回北海道国際理解教育研究大会が、第一回全国海外子女教育研究協議会北海道ブロック大会と十勝管内国際理解教育研究大会を兼ね併せて、雄大な十勝平野の中心地帯広市に於いて開催される事を、お慶び申し上げます。

また、今研究大会の開催に当たって関係機関の特段のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。と同時に大会諸準備・運営にご尽力くださいました十勝地区の会員の皆様に敬意を表すものです。

さて、今日の国際情勢は目まぐるしく変化し、歴史の流れの上でも大きな変革の時代に立たされているといえます。1989年末からの東欧に芽生えた変革の波はベルリンの壁を破りソ連をも揺るがせる大きなうねりとなりました。また、西欧におけるEC再編成の動向は、国家の概念を取りはずす大きな塊を形成しようとしています。そして、AA諸国やアメリカ大陸に於いても、政治・経済の変化は顕著となってきています。

私たち教師には「21世紀に生きる人間の育成」が命題として課せられています。その一つの要素として「世界の中の日本」の意識形成が求められ、国際理解教育の重要性が叫ばれています。他の国を理解するということは、その国の様子を知るだけではなく人々のいきる営みを知ることが大切であると思います。近年、国際交流が活発に行われるようになり、海外に出向く人や外国からの来訪者も身近に多く接するようになりました。また、国外からの情報もたくさん入ってきています。このような中で日本と異なる人や文化に触れたとき、外見や固定概念で一面的に判断することは避けなければなりません。往々にして、偏見や短絡的な思考による判断は大きな過ちを犯すものです。

言語や風俗習慣の違いはあっても厳しい自然環境のもとで、逞しく生きている人々があります。その姿を見て私たちにとって学ぶ事柄を多く見いだす事ができると思います。

現在の日本は物質文化が発達し、快適な生活が続けられていますが、一方では「豊かさの中の貧困時代」とも言われています。それは人間にとって大切な心の営み、つまり感性の低下が指摘されています。

今大会の主題が「世界にはばたく児童・生徒の育成」とし、「国際社会に貢献できる日本人の育成」を副題として、開催されることとなりました。人間尊重の精神を世界的な視野を持って見詰めさせ、考え、実践できる人間を育てていくことは、世界の平和を築く上でも大きな役割を担っています。

北の地での教育活動の灯が全道各地でもとされようになり、全国的な広がりを見せたとき、大きく美しい平和の灯が光り輝くことと思います。

この大会が内容の濃いすばらしい研究大会になるよう祈念してご挨拶といたします。



第一回全国海外子女教育研究協議会北海道ブロック大会

第十二回北海道国際理解教育研究大会帯広大会

十勝管内海外教育事情研究会会長 太田 哲雄

(新得町立新得小学校長)

昭和55年8月24日第1回全道国際理解教育研究大会を幕別町十勝教育研修センターで開催してから11年、再びこの研究大会を十勝・帯広で開催することになりました。

第一回大会の目的には「21世紀に生きる日本人はどうあればよいかを世界中の日本・北海道と言う視点でとらえ、そのための学校・社会・家庭が教育の場として、これからはすべきことを探り出していこうとするものである。」と書かれています。そして、「国際理解教育の望ましい発想を求めて」をテーマにシンポジウムが行われています。

それから11年、世界情勢は大きく変化しました。現在も大きく動いています。世界の中の日本の役割も大変に重要視されています。

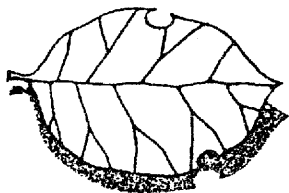
今年の大会では、世界の平和と人類の幸福に貢献できる日本人の育成を目指し、国際社会に羽ばたいていける児童生徒の育成を共に考えていこうと思っています。更に、標記のように第1回全国海外子女教育研究協議会北海道ブロック大会を併せることになりました。このことによって本研究会の内容も今年度はともかく、明年度以降の考え方に検討が必要になるかと思えます。

昨年度の網走大会の大成功を受けての帯広市開催には若干の不安があります。しかし、研究会の成否は一人一人の会員の参加と熱意によってできるわけで、全道からの多くの参加を心から期待しております。

今年の記念講演は、磯会会長さんのご尽力により、外務省官房審議官・北海道担当大使の堤 功一先生を迎えて、先生の広い外国における大使としての経験と外務省研修所所長としての国際的識見をお聞きすることになりました。不透明感の強い世界の様子をどう捕らえ、教育の場にどう反映していったらよいか、絶対に聞き逃せない機会だと思います。

研究会を引き受けた私たちとしては、過去の全道大会の実績を踏まえながら、十勝が昭和51年、会発足以来、年2回の研究交流会、年1回の授業を含む教育研究会の成果のうえにたって、授業・発表・資料等の準備を進めていますが、全道の会員の皆様との交流により、今後への大きな示唆が得られると期待しています。11月下旬と、気候も冬の入り口でいろいろとご不便をかけることもあろうかと思えますが、前日のレセプションと合わせて多数の参加を重ねてお願いいたします。

帯広で皆様とお会いできることを楽しみにしています。



平成3年度

- 第1回 全国海外子女教育研究協議会 北海道ブロック大会
第12回 北海道国際理解教育研究大会 帯広大会 開催要項
第12回 十勝管内国際理解教育研究大会

大会主題

世界にはばたく 児童生徒の育成
～国際社会に貢献できる日本人の育成をどうすすめるか～

1 目的

21世紀に求められる教育目標の一つに「世界の中の日本人」を掲げ、国際的視野の中で日本の社会や文化の個性を主張でき、かつ、異なる文化の優れた個性も理解できる日本人の育成が必要であると指摘されている。

私たちは、これまで11回にわたり全道各地において研究大会を開催し、一定の成果を収めてまいりました。今後は、人間尊重の精神をさらに徹底し、世界の平和と人類の幸福に貢献できる日本人を、生涯学習社会の中で培っていきたいものと考えます。日本人としての自覚と誇りを持って、国際社会にはばたいていける児童生徒の育成をめざして本大会を開催するものである。

- 2 期 日 平成3年11月21日(木) 22日(金)
3 開催地 帯広市
4 会場 帯広市立花園小学校 電話0155-24-9123
帯広市公園東町2丁目3番地
帯広ステーションホテル 電話0155-23-2188
5 協力校 帯広市立帯広第三中学校
帯広市立南商業高等学校

6 大会日程

(一日目の打合わせはステーションホテルで行います)

	14:00	15:00	16:30	18:00	20:00
第一日目	役員 打合わせ	司会 提言 記録 助言者打合わせ	自由時間	交流懇親会 ステーションホテル	

第二日目

9:00	9:30	10:20	11:10	12:10	13:00	14:10	15:40	16:00
受付	開会式 基調報告	小・中・高 授業公開	分科会 授業研・提言	昼食アト ラクション	分科会 研究協議	記念講演	閉会式	

7 記念講演

講師 北海道担当大使 堤 功一 氏
演題 「国際社会の中の日本人」

8 講師の紹介 堤 功 一 氏

昭和8年1月3日	東京都にて出生	昭和56年1月	大臣官房審議官兼中近東アフリカ局
" 29年10月	外交官領事官採用試験合格	" 56年9月	在連合王国日本国大使館 公使
" 30年3月	東京大学教養学部教養学科卒業	" 59年1月	特命全権大使ヴィエトナム国駐節
" 30年4月	外務省入省	" 61年6月	イスラエル国駐節
" 45年12月	国際連合局科学課長	" 63年12月	願に依り本官を免ずる
" 47年7月	条約局国際協定課長	" 63年12月	外務事官 外務省研修所々長
" 49年8月	在フィリピン日本国大使館 参事官	平成3年6月17日	大臣官房審議官
" 51年4月	在スウェーデン日本国大使館 参事官		北海道関係の事務に従事期間大使の名称を付与
" 53年8月	中近東アフリカ局外務参事官		

世界各国を歴任され、広い視野に立って激変する世界情勢の中で、今日、歩むべき日本の姿についての話しに期待したいと思います。

9 授業公開（授業は全て花園小学校で行います）

花園小学校	1年	生活科	指導者	橋 場 仁
"	3年	学級会	指導者	高 橋 セツ子
"	5年	社会科	指導者	荒 井 美代子
"	6年	社会科	指導者	舟 越 洋 二
帯広第三中	3年	英 語	指導者	金 子 良 子
			英語指導助手	（ウエンディーアレン）
帯広南商高	3年	英 語	指導者	藤 川 節 子
			英語指導助手	（ジェニファーランストロム）

10 分科会

第1分科会 小学校における国際理解教育をどう進めるか
提言者 帯広市立花園小学校 教諭 山 田 進

第2分科会 中学校における国際理解教育をどう進めるか
提言者 網走市立嘉多山小中学校 教諭 豊 島 稔

第3分科会 高等学校における国際理解教育をどう進めるか
提言者 北海道立池田高等学校 教諭 佐 藤 健 造

第4分科会 地域における国際理解教育をどう進めるか
提言者 帯広市国際親善交流市民の会副会長 森 山 澄 子

11 アトラクション 帯広市立花園小学校ジュニアバンド・マーチングバンド演奏

12 大会参加申込について

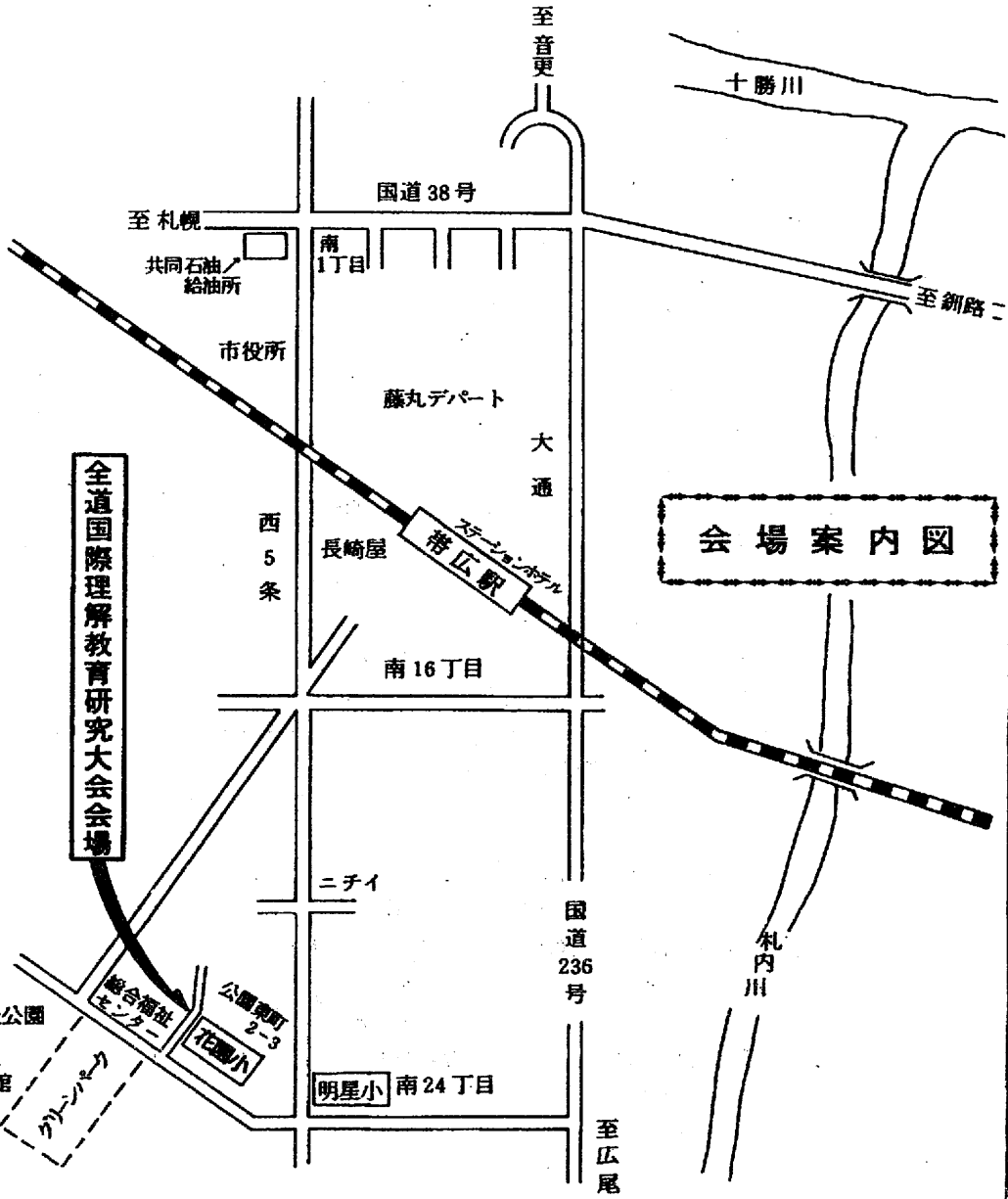
費 用	大会参加料	3,000円	（含資料代）
	昼 食 代	700円	（22日昼食）
	交流懇親会費	5,000円	（ステーションホテル）
	宿 泊 料	5,300円	シングル
		4,800円	和室3～4人 朝食付

申込方法 別紙申込書に記入のうえ、必要経費を添えて下記要領にてお願いします。

申込期日 平成3年10月12日

申 込 先 帯広市立啓北小学校 教頭 伊 藤 成 昭
〒080 帯広市西14条北7丁目3番地
☎0155-36-7754

- 13 お願い
- ・**駐車場** 駐車場が大変狭いので近隣の方と乗り合わせでおいで下さい。
会場校周辺の係員の指示に従って下さい。宿泊の方はホテルに置いてハイヤーでこられるといいです。
 - ・できるだけスリッパ持参でおいで下さい。



会場案内図

『在外日本人学校での教育の現状と展望』



のめざすもの

北海道国際理解教育研究協議会 研究部長 藤原 勲夫
(札幌市立北野平小学校)

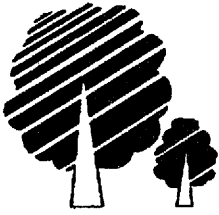
新指導要領への移行を来年度に控え、国際理解教育の重要性が日に日に高まりつつあります。北海道国際理解教育研究協議会では、この新指導要領のねらいを受け、21世紀で活躍する国際人の育成をめざし、11月に開催される全道大会の帯広大会を始め、各支部では多くの研究会を開催しています。そして、日常の教育活動の中で国際社会に生きる子供達をいかに育てていくか、未来に生きる子供の姿を描きながら研究実践に努めております。

このような大切な時期に、本会では、在外教育施設で多くの困難を克服しながら、海外子女教育に携わってきた先生方の貴重な体験を、帰国報告集『在外日本人学校での教育の現状と展望』として、刊行することになりました。この報告集は、各学校での日常実践活動の中で、国際理解教育の手引書として活用されることを会として、派遣された先生方の貴重な実践の足跡を保管することをねらっております。

さらに、毎年3月に実施している「在外教育施設派遣教員帰国報告会」では、各先生が自由な形式でまとめるため、討議も深まらず、発表時間も短いため、先生方の貴重な体験が十分に生かされなかったきらいがあります。その為、研究部では北海道教育委員会の協力のもと前述のねらいを押さえた内容にするため、記述の項だてとして①赴任国の概要 ②赴任国の教育制度 ③赴任校の特色 ④赴任校での国際交流の取り組み ⑤赴任で重点的に取り組んだ活動 ⑥帰国後の取り組みでみたいこと、を設定して執筆していただくことになりました。

現在、平成3年3月帰国の先生方の原稿が事務局に集められ、12月末には「在外教育施設派遣教員帰国報告集(第1集)」として、刊行される予定です。

この貴重な報告集が、在外教育施設への派遣を希望されている先生、派遣が内定されている先生、多くの示唆を提供できると共に、平成4年度からの新指導要領完全実施により、全道各地の学校で進められる国際理解教育の為の手引書として活用されることを願っております。そして、この報告集の刊行が回を重ねる度に内容が充実し、多くの人に活用され、北海道における国際理解教育の推進に大きな役割を果たすことと信じています。



今回、原先生は 先生の長年の国際理解教育への貢献に対し全国国際理解教育研究協議会より、表彰を受けました。

『再び初心に戻って』

原 恒夫

(八雲養護学校)

十数年も前のことになりますが、日本人学校を経験した方々が、時々、札幌でお会いしておりました。あるとき、気境元教育長が会合の折り、会を作るようお話になり、働きかけていただいたのが現在の会の発足のきっかけとなりました。すぐ、本田校長先生を中心に「北海道帰国教師の会」ができ、「国際理解教育」に会として取り組むことになりました。

しかし、15年も前のことですので、周りからは「外国かぶれが何か始めた」ぐらいにしか思われな時代で研究もなかなか進まない状況でした。それでも、本田会長はじめ事務局の中村先生の名コンビで、私たちをリードして、年一回研究会を開催できるようになりました。会員の先生方は「国際理解」に関する環境のない中で次々と立派な実践を発表するまでになり、やがては全国大会を開くまでになりました。

どんなすばらしい実践も、その学校や地域に定着しなければなりませんので、私自身「やりっ放し」にならないように留意しました。江差小学校での国際理解教育も7年間で転出することになりましたが、現在も江差小学校で充実した活動が続けられていると耳にしており、嬉しく、また、ありがたく思っております。後をうけてくださいました同校の先生方は、大変な苦勞をされて、継続発展させてこられたのだと思います。海外派遣のとき、バンコック日本人学校の児童生徒と作った「青少年サークル」も当時70～80人であったものが、現在は600人にも増え、タイの学校やインターナショナルスクールと野スポーツ交流を続けているとのことでした。

国際理解が必要だと考える方が多くとも、行動に移すまでに至らないのだと思います。最初からレベルの高いことはなかなかできませんので、「身近なこと」「小さなこと」から進めて参りました。ありがたいことに、上司、同僚の理解と協力を得られ、その輪を広げることができました。

現在、勤務しております養護学校へ参りました際は、「障害者の国際理解はどう進めたらよいか」不安に思いました。しかし、子供達と話してみますと、健常者以上に大きな夢や希望を持っていることがわかりました。幸いにも通信技術の発達は、パソコン通信で世界各地と交流することができるようになりました。こどもたちのベットと外の世界と結び付け、こどもたちの夢を実現することができました。

新指導要領の中で、国際化に対応した教育を明文化した時代となり、これからが本会の実力を出せる時となりました。今回の受賞を機会に、初心に戻り「国際理解教育」を考えてみたいと思います。

今後とも諸先生方のご指導をお願いいたします。

—お元気で ご活躍中!!—

海外会員……………

- | | |
|---------------|---------|
| ・カルカタ日本人学校 | 種川 健先生 |
| ・メダン日本人学校 | 木下 昌司先生 |
| ・ジュネーブ補習校 | 小島 雅人先生 |
| ・ヴィトリア日本人学校 | 村瀬 正貢先生 |
| ・アムステルダム日本人学校 | 畑野 功 先生 |
| ・香港日本人学校 | 中岡 信一先生 |
| ・リマ日本人学校 | 笹木 卓三先生 |
| ・ジェッダ日本人学校 | 藤本 伸一先生 |
| ・ダッカ日本人学校 | 矢口 元晴先生 |

上記の会員からお便りが寄せられております。本来であれば、お便り全文を掲載したいのですが、19号も御覧の通り全道大会等の記事で一杯になりました。お名前をお届けするにとどまっています。申し訳ありません。

会報19号をお届けいたします。

- ・10月、発行予定が大巾に遅れてしまいました。予定しておりました原稿が遅れ、待っていたのですが……………。これ以上は待てませんので発行いたします。
- ・1988年秋の9号より担当させていただき、年4回の定期発行に心がけて参りました。9号より19号までの11回分を発行しました。
- ・一回の郵送料(国内・海外)は25000円にもなります。退会の連絡が無い限り、親子4人で「夜なべ」をして、折って封筒に入れ、郵便局へ……………。
- ・うれしく、ありがたいのは「反応」でした。特に海外で頑張っておられる会員からの便りでした。会報に合わせて、北海道の様子を綴って送りました。また、時には絵葉書を海外へ
- ・今回で桜田の担当を終了いたします。大麻小学校のご理解とご協力に感謝いたします。特に印刷、製本等々で大変お世話になりましたSさんに深謝。
- ・20号以降、山鼻中学校の小野先生が担当されます。乞う、ご期待!!

在外教育施設派遣教員一覧

派遣年度	管内	所 属	職名	氏 名	派 遣 先			
					(国名)	日本人学校名	職名	
元年 (17)	石狩	札幌市立北の沢小	教頭	佐野 和人	(1818)	ロンドン	教員	
								松前町立清成小
	教員	函館市立南花中	教員	藤本 伸一	(1717)	ボンベイ	教員	
								函館市立光成中
	後志	小樽市立権儀小	教員	清水 久司	(1717)	オマーン(南)	ベオグラード	教員
	上川	旭川市立旭川第二中	教員	矢口 元明	(191317)	香港	教員	
								旭川市立緑丘小
	留萌	旭川市立旭川第二中	教員	可児 廣夫	(1917)	カイロ	教員	
								旭川市立旭川中
	網走	北見市立高梁小	教員	柏 征一	(1718)	ニュー・ヨーク(南)	教員	
								小樽市立泉野小
	十勝	帯広市立大空小	教員	新戸 春樹	(1717)	アメリカ	教員	
								帯広市立上浦原中央小
釧路	釧路市立日蓮小	教員	川口 正賢	(1718)	アメリカ	教員		
							釧路市立聖徳小	教員
(18)	旭川市立旭川第二中	教員	川口 正賢	(1718)	アメリカ	教員		
							旭川市立旭川第二中	教員
(18)	旭川市立旭川第二中	教員	川口 正賢	(1718)	アメリカ	教員		
							旭川市立旭川第二中	教員

派遣年度	管内	所 属	職名	氏 名	派 遣 先		
					(国名)	日本人学校名	職名
2年 (20)	石狩	札幌市立古知小	教員	石田 崇	(1718)	上海	教員
	後志	小樽市立包内小	校長	加賀 政治	(1717)	カナダ	教員
	空知	旭川市立東川中	教員	佐藤 敏彦	(1717)	ハンガリー	教員
	上川	旭川市立東川中	教員	上野 和幸	(1718)	ロンドン	教員
	(18)	旭川市立東川中	教員	上野 和幸	(1718)	ロンドン	教員
(18)	旭川市立東川中	教員	上野 和幸	(1718)	ロンドン	教員	
							旭川市立東川中

派遣年度	管内	所 属	職名	氏 名	派 遣 先		
					(国名)	日本人学校名	職名
2年 (20)	網走	北見市立高梁中	教員	浜田 泉三	(1718)	シカゴ(南)	教員
	十勝	帯広市立明和知小	教員	菅野 連夫	(1717)	カナダ	教員
	留萌	旭川市立旭川第二中	教員	矢目 幸良	(1717)	カナダ	教員
	上川	旭川市立旭川第二中	教員	川口 正賢	(1718)	アメリカ	教員
	(18)	旭川市立旭川第二中	教員	川口 正賢	(1718)	アメリカ	教員

派遣年度	管内	所 属	職名	氏 名	派 遣 先		
					(国名)	日本人学校名	職名
3年 (18)	石狩	札幌市立旭川中	教員	大場 勲	(1718)	フィロイト(南)	教員
	後志	小樽市立旭川中	教員	佐々木 俊明	(1718)	シカゴ(南)	教員
	空知	旭川市立旭川第二中	教員	菅田 英孝	(1718)	アメリカ	教員
	上川	旭川市立旭川第二中	教員	菅田 英孝	(1718)	アメリカ	教員
	網走	旭川市立旭川第二中	教員	菅田 英孝	(1718)	アメリカ	教員
	十勝	帯広市立旭川中	教員	菅田 英孝	(1718)	アメリカ	教員
	釧路	旭川市立旭川第二中	教員	菅田 英孝	(1718)	アメリカ	教員
(18)	旭川市立旭川第二中	教員	菅田 英孝	(1718)	アメリカ	教員	
							旭川市立旭川第二中

計 53 人